

## 【学童部の投球制限について】

肘・肩の障害防止を考慮し、1日7イニングまでとする。但し、特別延長戦に限り2イニングまでは認める。

(1人の投手は、最長9イニングまで投球可能。… その試合の1～7回を1人で投げた場合のみ。)

## 【学童部の特別延長戦について】

- 特別延長戦は、2イニングまで投球する事ができる。



ただし、特別延長戦に登板できる投手は、下記①②のいずれかに該当する投手である。

①	『その日初めて登板した投手で最終回の終了時に投球していた投手』
②	『その日初めて登板する投手』

(特別延長戦を1イニングずつ分けて登板する場合も同様である。)

○特別延長戦に登板した場合、通常の投球回数(1日:7イニング)にはカウントしないが、その日に登板した事になる。

○第1試合の特別延長戦に1イニングしか登板していない場合、第2試合の特別延長戦にもう1イニング登板する事ができるのではなくて、第2試合の特別延長戦には登板する事はできない。

(上記②に該当しないため)

## 【例】

- 第1試合の特別延長戦に登板できる投手

	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	特延1回	特延2回
投手	A	B	B	B	B	B	A	★	★
	1イニング	5イニング					1イニング		

※この場合、Aが最終回終了時の投手だが、この日初めての登板ではない(1回に登板)ので「×」。

Bも初めての登板ではない(2～6回に登板)ので「×」。

結果、この試合の特別延長戦(★)に登板できるのは、その日に初めて登板する投手となる。

- 第2試合の特別延長戦に登板できる投手

○第1試合で、特別延長戦も含め、既に登板した投手は「×」となるので、登板できる投手は、「その日に初めて登板した投手で最終回の終了時に投球していた投手」若しくは、「その日初めて登板した投手」となる。